

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和5年度第2回相模原市子ども・子育て会議		
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話042-769-8315 (直通)		
開催日時		令和5年8月10日(木) 午後6時から午後8時25分		
開催場所		現地出席とオンライン出席によるハイブリッド開催 (現地会場: けやき会館2階 職員研修所大研修室)		
出席者	委員	12人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	10人(こども・若者政策課長ほか9人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 委員紹介 3 議 題 次期子ども・子育て支援事業計画策定に向けた意見聴取の取組 について 4 その他 5 情報提供 6 閉 会		

1 開 会

2 委員紹介

令和5年6月1日付けで委嘱した委員の紹介を行った。

3 議 題

・次期子ども・子育て支援事業計画策定に向けた意見聴取の取組について

次期子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた意見聴取の取組について説明した。また、第1回会議において委員から出された意見を踏まえた調査票案を提示し、改めて意見を伺った。委員からの意見、質疑応答は次のとおり。

(後藤委員) 調査対象として40～75歳が追加されたとあるが、この年代はある意味では子育ての第一線から少し離れており、今まさに子育てをしているひとり親家庭の調査件数と差があることに疑問を感じる。

(事務局) 40～75歳の母数が多いことから、統計的に有意な回答数になるように計算した結果、調査件数も多くなっているが、聞く対象の「重み」についてのご意見であると思うため、引き続き検討させていただく。

(石井委員) アンケートに実際に紙で回答してみたが、最後まで行くのは大変だった。また、目が見えない方等のために、音声読み上げや音声での回答ができるものがあれば、様々な方に広く回答をいただけたらと思う。

(片山会長) 事務局においてご検討いただきたい。

(朝比奈委員) 先ほど、調査件数は統計的に有意な回答数となるよう計算したということであったが、数の根拠はもう少し丁寧に出していただきたい。また、QRコードのアンケート調査は、8分以内で回答できる内容でないと回答率が上がらないというデータもあったと思う。回答に要する時間も考慮しながら質問数などを決めていただければと思う。

(事務局) ご意見を踏まえて検討させていただく。調査件数は重みを付けて誤差の設定を変えるなど、過去の経過も確認し、検討する。

(片山会長) 子どもの声を聞くことが今求められている。子どもたちが持っているGIGAスクール端末などを活用できると良いと思うが、いかがか。

(事務局) 様々な調整をした中で、学校の時間を使って回答してもらうことや家庭でのタブレット使用等に課題があることがわかったため、はがきにQRコードを印刷して送付し、保護者のスマホ等を使用して回答していただくこととしたい。

(朝比奈委員) 子どもワークショップの実施は良い試みであると思う。学校の授業の中に盛り込む、学校の先生の協力を得ながら進めること等を検討されてはどうか。

また、子どもたちのミーティングを実施するにあたっては、ファシリテーターの存在がとても重要である。ファシリテーターにはスキルが必要とされ、保育者も研修をしながら育成している。実施するにはスキルを身に付けた人がファシリテーターを務められるよう検討していただきたい。

(事務局) 学校での実施については、学校に対して「こういった取組があり、関心があれば取り組むことができる」という案内をすることは可能であるが、学校で行わなければいけないという形にすることには難しさがある。教育内容や教育課程は各学校で決めることとなっているため、必ず実施するよう市や教育委員会から求めることは難しい。

(朝比奈委員) すべての学校で一律にとまでは思っていないが、子どもの意見を聴く取組には、学校の先生も関心があるのではないか。一緒に取り組んでみないかという案内や、働きかけをしてみてもどうか。

(事務局) 働きかけであればできるかと思う。

(安西委員) 働きかけはできても実施するかどうかは学校長の判断になるというお話だったが、子どものダイレクトな声が拾える良い取組であると思う。学校長に直接聞いて今のようなお答えになっているのか。

(事務局) 仕組みとして、教育委員会は指導要領の中身について指導することはできるが、それ以外のことについて、必ず取り組むよう求めることはできない。ただ、子どもたちにとって有意義な取組であるため、取り組んでいただきたいといった働きかけはできる。

(小泉委員) 事務局からの説明に補足させていただく。取組自体はとても良いことであり、学校で取り組むことの重要性についても重々承知している。ただ、これ以外にも学校でこういうことをやってはどうかという取組がたくさん来ている。教育課程の中ですべてに取り組むことは難しく、取捨選択する必要が出てくる。学校ごとに教育活動の中でどこに重点を置くかが異なるため、何を選択するかも異なる。良い取組だからと言って全部を取り入れられないのが、学校としても苦しいが実状である。

(片山会長) 冒頭で相模原市の取組を知るツールとして、市ホームページ内のさがみはらキッズの紹介があったが、このページを学校で子どもたちが見る機会はあるのか。

(事務局) 子どもたちが市の施策について学ぶ機会としては、社会科の公民分野等や総合的な学習の時間がある。そういう時間でさがみはらキッズを使うという選択肢はあると思う。

(片山会長) 子どものアンケートを学校で実施するのが難しいということは理解した。ただ、アンケートは対象者を抽出して行われるため、アンケートを実施していることが対象者以外に伝わらない。こどもワークショップに向けて、市が実施している

取組はぜひ知っておいて欲しい。市がアンケートを実施していることを、さがみはらキッズを用いて学校で周知していただきたいが、いかがか。

(小泉委員) もう少し具体的になれば検討できると思う。

(片山会長) ワークショップにすべての子どもが参加するわけではない。一部の子どもたちの取組にならないように、期待したい。

(事務局) 詳細はこれから詰めていくが、協力いただけるところは協力いただきながら進めていきたい。

(園田副会長) 現行計画の策定にあたって実施した前回の施設・事業アンケート調査はヒアリング調査であったが、今回アンケート調査とした理由を伺いたい。

(事務局) 施設に伺う手間と受け入れる施設の手間を考慮したこと、また、回答する利用者等の本音を引き出したいということで、アンケート調査とさせていただきたい。

(安西委員) アンケートに全部回答してみたが、ボリュームがあつて大変だと思った。質問をご検討いただいたということだが、結局のところボリュームが多いままという印象であった。今後どのくらい減るのか、今後の見通しがあれば伺いたい。

(事務局) 事務局としても非常に悩んだところであり、委員の認識のとおり、今のところほとんど減っていない。もっと質問数を絞ることができればベストではあるが、意味のない質問がほとんどなく、数を減らすことが難しいと考えられるため、テクニカルな部分で工夫をし、回答しやすい形を考えていきたい。

(園田副会長) どのようにクロス集計をするかで分析のしかたが変わる。ヒアリングがないのであればクロス集計で補わなければならないが、そのやり方は今後委託する事業者とやるのか、あるいはこの会議で少し検討できるのか。

(事務局) 事業者と打合せをして進める予定であった。この会議にお示しできるかは検討したい。

(園田副会長) クロス集計を増やすと予算が掛かるため限界があると思うが、マイノリティの方やひとり親家庭の方がどのような課題を持っているかは、クロス集計によって抽出できることもあるかもしれない。予算の範囲でということになるかと思うが、ご検討いただきたい。

(片山会長) 今までのアンケートは、国が示したものに準じて5年ごとの結果を比較するのが大事だという前提があつたが、それぞれの実状に合わせてという形になった。アンケートの結果を良い形でフィードバックしていければ良い。

(後藤委員) アンケートは答えてもらってなんぼのものだと思う。携帯で見たときに文字がずらっとあると、回答意欲を減らしてしまうのではないか。予算が許すのであれば、レスポンス良く答えられるようなシステムであつて、答え終わったときに回答者に何か得られるものがあれば、ゴールまでたどり着きやすいのではないか。例えば市の観光大使とさがみんがコラボした画像のプレゼントなどがあると面白

い。

(片山会長) 良いアイデアだと思う。ぜひ事務局には前向きにご検討いただきたい。

(永保委員) 現場にいと、様々なアンケートを依頼され、アンケート疲れのような状態になる。質問項目を見ると、学校から来たアンケートと似ている気がする。他のアンケートで聞いているものを活用できれば、質問数の削減につながるのではないか。

(野口委員) アンケート項目の中で子育てについて不安・負担に思うことを問う質問があるが、自分の子どもの状況がどうなのかと心配に思っている方もいる。「発育・発達が気になる」というような選択肢が案として入っていて、選択肢の番号が付いていないが、入れていただけるのか。ぜひ入れていただきたいと思う。

(事務局) 入れる予定である。

(布施委員) 我々もアンケートを取る機会は多くあり、その中で工夫すべきことは、いかに最後まで答えてもらうかということだと思っている。紙での調査の場合、その工夫はなかなかできないが、デジタルで実施するのであれば、今自分がどのくらいの位置にいるのか視覚的にわかると、回答者もあと少し頑張ればゴールにたどり着くと思えるので、そういった工夫はした方がいいのではないかと思う。これだけの内容を答えてもらうのであるから、何かお礼が必要だと思ったが、後藤委員の相模原市のキャラクターを使うというご意見は良いアイデアだと思った。さがみんの壁紙やLINEスタンプ等、少し特典があると、お子さんや若い方にも回答いただけるのではないか。

4 その他

永保委員から会長に対し、孫育てハンドブックの作成に係る意見書の提出があり、次のとおり議論が行われた。

(片山会長) 「孫育て」について資料の提供が行われている事例は把握している。子どもの育て方の認識の変化が、子育て当事者である親と子育てを応援する方たちで差異を生んでおり、良い形にしていくための取組であると理解している。さらに、子どもの発達障害に関する認識についても、子どもを取り巻く大人たちが共通理解を持ちながら、地域でより良い子育てを応援していく取組として、ハンドブックに盛り込んではどうかという提案であると理解した。

相模原市では、幼児教育・保育ガイドラインをこの会議が中心となって作成しており、研修等でも使用されている。「孫育て」という言葉はすごく親しみやすいご提案かと思うが、ガイドラインでは「地域」の役割がまとめられており、多様な家庭がある中で、孫や子育て当事者である親との関わりも「地域」としての立場の一つであると考えている。ハンドブックの作成も良いが、ガイドブックに「地域」の役割として書かれていることが、地域にいる一人一人の大人の役割であるということ

広めることが必要なのではないか。

(永保委員) 会長のおっしゃる通りである。保護者から、自分の親の常識と保健師から教えてもらった知識とのギャップに悩んでいるという相談を受けたため、子ども・子育て会議としてハンドブックを作るのは難しく、市のどこかの機関にやってもらわなければならないというもどかしさがありながらも提案させてもらった。どうせ作るなら、自分の子が発達障害かもしれないと悩んでいる家庭に対しての支援をどうしたら良いかというのが、祖父母世代にはますますわからないと思い、ハンドブックに含めてはどうかと考えた。

(片山会長) 色々検索すると、市町村だけではなく医師会等の団体で出しているものもある。参考にしていきたい。

5 情報提供

(1) 令和5年5月1日現在の児童クラブ待機児童数について

令和5年5月1日現在の児童クラブの待機児童の状況について、事務局から説明を行った。委員からの意見、質疑応答は次のとおり。

(安西委員) 児童クラブの入会者数は民間も含めて増えている状況で、学校の空き教室の活用や、職員の数の確保などが課題になっており、かなり大変な状況が資料からも見て取れる。実際に児童クラブの中で人数が多すぎるんじゃないとか、保護者の方からご意見等が上がっていることはないのか。施設の数が変わっていないのに利用児童数が増えていることが感じ取れるため、実際の状況はどうなのかを伺いたい。

(事務局) 委員のおっしゃるとおり、理想の一人当たりの面積を1.2倍にして対応していても、施設が追い付かない状況がある。また、最近では職員がなかなか集まらないということもある。待機児童数は地域差も大きく、町田駅・相模大野駅の近くなど南区では特に多くなっている。

(野口委員) 小学3年生まで受け入れていたのを4年生まで受け入れるようになったのは、保護者の仕事の都合か、受け入れている子どもの状況が変わってきたのか、何か理由はあるのか。

(事務局) 保護者の要望もある。受け入れるには、施設や職員の数に余裕があるかどうかによるため、主には緑区の中山間地域の余裕があるところでモデルケースとして受け入れを始めている。

(馬場委員) 児童クラブについては小1の壁とよく話が出る。保育園・幼稚園は早朝保育などがあっても、公立の児童クラブは土曜や長期休みは早くても朝8時からの預かりである。待機児童の対応も必要だが、8時前から子どもが児童クラブの前で開館を待っているということもあるという現状を市では把握されているか。受け入れ側の体制もあるかと思うが、待機児童の問題に加えて細かいところだが把握して考えて

いただきたいと思う。

(片山会長) 民間児童クラブでも朝早く預かるケースが増えているという話は、以前から発言があったが、保育施設でも早朝からの保育を要望されることが増えている。要望に対応するための人的な対応はなかなか進んでいないし、それぞれの施設の工夫で民間は対応している。市立児童クラブの取組がモデルとなって進んだら嬉しいと思う。

(2) さがみはら休日一時保育事業について

さがみはら休日一時保育事業の内容及びスケジュールについて、事務局から説明を行った。委員からの意見、質疑応答は次のとおり。

(朝比奈委員) この事業はかなり重要な、市の新しい子育て支援の施策である。今までの事業計画にないものを出していくということであれば、もっと事前の計画の段階で一度本会議における議論があるべきであったと思う。今後、事業が進んでいく経緯についても本会議で見守っていくべきである。

(三浦委員) 前回の子ども・子育て会議では、本事業をやるかどうかを検討している段階でのお話があったが、そのあとにテレビの報道で事業の実施を知って驚いた。子育て世帯からすると良い事業だとは思いますが、色々なところに配慮して事業を進めていただきたいと感じた。

(片山会長) 私も進め方が違っているという実感は持った。次の計画の策定を進めていく中で、地域子ども・子育て支援事業の中の一時預かり事業の一つとしてアイデアを出されたと理解した。ただ、一時預かり事業が全市としてどのくらい実施されているのか等のデータを出していただき、どういう需要があるのかを議論した上で進めていただきたかった。休日の預かりの必要性があるという実感を持っている委員もいらっしゃると思うが、一時預かり事業は事業展開していく中で課題が多い事業でもある。そのバックアップがどのくらいできるのかということが気になる。誰でもいつでも預けられるということであるが、通常の保育では、お子さんの様子を把握してこども本位の保育ができる。一回限りという受け入れ方をすると、お子さんの気持ちが追い付かないことがあり、保育する側は難しいスキルを必要とする。通常の保育施設における一時保育でも、それなりの経験者を配置して対応しており、その時だけやってもらえる人を手当するということはあり得ない。子どものことを考えると、子どもが納得できるかどうかということが非常に重要になってくる。しかも、休日は病院など関係機関との連絡が取れず、現場任せになるというリスクもある。そういうことを共有しながらベストな形で進めていただきたい。「子育てするなら相模原」がこれだけで代表されることにならないようにしていただきたい。

(事務局) 今年度予算には選考委員会の委員謝礼を計上し、議会でもご審議いただいた上で4月頃に実施方法を固めた。委員の皆さまからご意見をいただいている部分

については、もう少し子ども・子育て会議において情報提供しながら進めるべきだったと考えている。今後に活かしていきたい。

(園田副会長) 地方版子ども・子育て会議には目的・位置付けがある。地域における子ども・子育て施策がどう展開されるか、どう実施されるかを調査し意見を述べるということだが、情報提供として3件が取扱われていることに違和感がある。情報提供というやり方が成立するのであれば、施策を打ってしまった後に情報提供とすることが成立してしまう。今回情報提供されている事項はすべて審議事項ではないか。この会議は、決定権はないがより良い施策のために意見を述べるものであり、そういった意図で市長が諮問していると考えている。そうすると、今日の情報提供としての議題の進め方はかなり違和感がある。もう一度子ども・子育て会議の目的・役割を再認識して進めていただきたい。

(3) 児童心理治療施設の新設に係るサウンディング型市場調査の実施について

児童心理治療施設の新設に係るサウンディング型市場調査の実施について、事務局から説明を行った。委員からの意見、質疑応答は次のとおり。

(園田副会長) 児童心理治療施設はどれくらいニーズがあるかということによるが、一般的に考えると、相模原市は政令指定都市であるため1施設はあっても当然と考えている。進捗については、逐一会議の中で、できれば記者発表の前に情報提供いただきたい。

(片山会長) 母子保健計画については、社会福祉審議会児童福祉専門分科会で審議されるということであるが、本会議の前に議論を進めている状況か。

(事務局) もともと、現行計画も母子保健計画は社会福祉審議会の児童福祉専門分科会で審議をしている。次期計画を作るにあたって、医学的知見をもった委員からご意見をいただいで進めていく予定である。

(片山会長) さがみはら休日一時保育の関係で保育所を新設することになると、児童福祉専門分科会でも審議を行うか。

(事務局) 社会福祉審議会児童福祉専門分科会及び子ども・子育て会議で意見を聴取する予定である。さがみはら休日一時保育事業で認可保育所を新設するにあたって、然るべきタイミングで皆さんのご意見をいただく場を作りたいと考えている。

(片山会長) すでに児童福祉専門分科会でも議題に上がっているのか。

(事務局) 通常、調整がある程度進んだ段階でご意見をいただいているため、1年くらい先になると考えている。

相模原市子ども・子育て会議委員名簿

(五十音順)

氏 名	推 薦 団 体 等	出 欠
あさひな たろう 朝比奈 太郎	相模原市私立保育園・認定こども園園長会	出 席
あんざい しゅんいち 安 西 俊 一	相模原市学童保育連絡協議会	出 席
いしい やすこ 石 井 康 子	みらい子育てネットさがみはら連絡協議会	出 席
おしだ ゆうすけ 押 田 裕 輔	公募市民	欠 席
かたやま ともこ ◎ 片 山 知 子	和泉短期大学児童福祉学科 特命教授	出 席
こいずみ いさむ 小 泉 勇	相模原市立中学校長会	出 席
ごとう りょう 後 藤 亮	公募市民	出 席
そのだ いわお ○ 園 田 巖	東京都市大学人間科学部准教授	出 席
たがわ つぐよ 田 川 継 世	一般社団法人 相模原市ひとり親家庭福祉協議会	欠 席
ながほ たかあき 永 保 貴 章	一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども園協会	出 席
のぐち かずよ 野 口 和 代	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	出 席
ば ば まゆみ 馬 場 眞由美	相模原市民生委員児童委員協議会	出 席
はやさか あつし 早 坂 淳 史	日本労働組合総連合会神奈川県連合会 相模原地域連合	欠 席
ふ せ あきよし 布 施 昭 愛	相模原商工会議所	出 席
みうら ともり 三 浦 友 則	相模原保育室連絡協議会	出 席

◎ 会長 ○ 副会長